

第11回（2021年度） 運営報告会 資料

2021年9月15日（水）初版公開



一般社団法人 日本ロボット学会
The Robotics Society of Japan

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-19-7
ブルービルディング 2階
TEL. 03-3812-7594 FAX. 03-3812-4628
URL <http://www.rsj.or.jp/>

事業別報告（2021年度概要，2022年度計画）

I. シンポジウム（継続事業1）[担当：事業理事／学術講演会理事]

1. 2021年度概要

(1) ロボット教育セミナー「からくり工作教室」

コロナ禍の影響で予定していた夏休みの開催は中止，引き続き開催を検討中。

(2) 第39回学術講演会（オンライン，2021年9月8日(水)～11日(土)）にて，オープンフォーラム（無料・一般公開）を12件企画。

2. 2022年度計画

(1) ロボット教育セミナーを開催予定。

(2) 第40回学術講演会（東京大学本郷キャンパス，2022年9月5日(月)～9日(金)）にて，オープンフォーラム（無料・一般公開）を企画予定。

II. 学会誌（継続事業2）[担当：学会誌理事]

1. 2021年度概要

(1) 学会誌の編集・発行

2021年の会誌は，従来通り年間10号の発行を予定しており，これまでに第39巻1号～6号を発行している。本年度既発行および今後発行予定の特集は以下の通りである。

第39巻1号 ロボットと哲学

第39巻2号 NEDO 先導研究プログラム

第39巻3号 手術ロボットの社会実装

第39巻4号 3D プリンティングとロボティクス

第39巻5号 ロボットと言語

第39巻6号 極限環境作業ロボット

第39巻7号 強化学習とロボティクス

第39巻8号 ERATO 稲見自在化身体プロジェクト

第39巻9号 ワイヤ機構とロボティクス

第39巻10号 収穫ロボット（仮）

2020年1月から投稿論文が論文誌から切り離され，完全オンライン化された。これによる会誌ページ数の減少を防ぐ目的として，幾つかの企画が立案されている。例えば，瀬名先生のインタビュー記事が第39巻2号に，浅田前会長と人工知能学会野田会長との対談記事が第39巻4号に掲載された。また，第39巻2号から4回にわたり，学生編集委員会の学生委員による学術講演会レポートを掲載されている。なお，この学生編集委員会は，東北・関東・関西などエリアごとに学生が主体となって活動が進められており，学会誌の特集に連動した研究室訪問や，大学発ベンチャー企業への訪問などが積極的に行われており，今後，会誌やロボ學に掲載されていく予定である。

論文関連としては，これまでの4カテゴリに「人文社会」を追加し，従来の科学技術分野ではない哲学・心理学・法学・政治学・文学など幅広い人から，ロボットに対する深い理解や社会との関わりを扱う研究論文を募集している。このような分野にも関心を持ってもらうために，会誌の第40巻1号には心理学関連の特集を企画するとともに，人文社会の論文特集号も企画している。

学術講演では、昨年から開始したレター同時投稿を今年も募集した。申込締切時点での希望者は 99 件（参考：昨年は希望 100 件強で投稿 86 件）だった。例年の投稿論文の総数に対し投稿数が急増しており、掲載までに時間を要していることから、処理の仕方を検討する必要が出てきた。特に、レターは速報性を重視する性質を持つことから、早期掲載について検討が進めている。

（2）投稿論文の投稿・査読状況

表に論文投稿・査読に関する数値を示す。年間投稿論文数および掲載論文数について、2020 年 7 月 1 日～2021 年 6 月 30 日の投稿論文数は 117 件（内、総合論文 0 件、学術・技術論文 31 件、解説論文 0 件、レター 86 件、討論 0 件、前年度 185.3%増）であった。この期間の新規受付論文について、採録率は 65%であった。前期間と比較し、投稿論文数は急増しているが、学術講演会におけるレター同時投稿によるものである。

論文投稿から最終判定までの平均期間は 4.3 ヶ月で前年度の 3.6 ヶ月から若干短くなっているが、掲載までの平均期間は 11 ヶ月で前年度の 8 ヶ月から時間を要している。これもレターの投稿が急増したためである。

採録された論文の主たる評価項目の内訳は、新規性 30.5%、有用性 52.5%、提案性 17%、であった。前年度は順に 36、36、27%であり、有用性が若干増加傾向にあることが分かった。

表 学会誌 論文投稿・処理状況

投稿日	受付種類	件数	採録(率) (注 3)	返却	取下げ	査読中
2020.6.30 以前	継続 (注 1)	15	12(80%)	3	0	0
2020.7.1～ 2021.6.30	新規 (注 2)	117	59(65%)	32	1	24
	全合計	132	71(67%)	35	1	24

注 1：2020.6.30 以前に投稿され、2020.7.1～2021.6.30 に判定された／2021.6.30 現在査読中の論文

注 2：2020.7.1～2021.6.30 に新規論文として投稿された論文

注 3：採録率 = 採録 / (採録 + 返却)

（3）広告受注状況

2020 年度の広告受注に関しては、目標額 400 万円に対して 602 万円の受注と、目標額を達成した。2021 年度目標額も 400 万円と設定しているが、39 巻 5 号時点で既に受注額が 206 万円となっている。昨年度 38 巻 5 号時点では 401 万円であり、昨年度よりも受注額が低くなっている。コロナ禍による影響と思われる。目標額の 400 万円に向けて、引き続き、広告代理店・広告主への働きかけを続けたい。

2. 2022 年度計画

2022 年度においても年 10 号の学会誌発行を計画している。会誌編集委員による特集だけでなく、学生編集委員による企画も検討を進めている。新型コロナの影響で、現在は各大学における学生の活動が制限されているが、2022 年度は状況を見ながら活動を進めていきたい。また、学生が活動しやすいように会誌編集委員の支援体制も検討したいと考えている。さらに、今後もロボット学会として Web ページ「ロボ學」と会誌の連動についても、積極的に進める予定である。

III. 欧文誌（継続事業3）[担当：欧文誌理事]

2017年より Editor in Chief に就任した細田耕教授（大阪大学）の統率のもと、Advanced Robotics の安定した発展を維持させつつ、時流に即した新しい取り組みを取り入れようとしているところである。

1. 欧文誌編集・発行

Vol.35 を編集・発行している（全24号）。各号の詳細は以下のとおりである。

Vol./No.	Online Pub date	Theme of Issues	Guest Editors
35/1	Jan	Regular Issue (5 papers)	
35/2	Jan	Regular Issue (4 papers)	
35/3-4	Feb	Intelligent Autonomous Systems (11 papers)	M Ang, M Strand, J Miura
35/5	Mar	Embodied Haptic Technology for Human Augmentation (5papers)	K.Fujita, Y.Kuroda, D.Pratticchez, K-U. Kyung, Y.Tanaka
35/6	Mar	Regular Issue (5 papers)	
35/7	Apr	Cyborg and Bionic System III (6 papers)	Q.Shi, T.Arai, C.Rong
35/8	Apr	Regular Issue (4 papers)	
35/9	May	Ethics, Law and Psychology towards Responsible Robotics for the Society(5 papers)	Y.Kawai, T.Inatani, F.Fossa
35/10	May	Regular Issue (5 papers)	
35/11	Jun	Extra SI on Soft/Social/Systemic (3S) Robot Technologies for enhancing Quality of New Normal (QoNN) (10 papers)	Mochiyama, Nagahara, Taniguchi
35/12	Jun	Regular Issue (4 papers)	
35/13-14	Jul	Hyper-Adaptability for Overcoming Body-Brain Disfunction	Y.Hayashi, Q.An
35/15-16	Aug	Robot and Human Interactive Communication 2021	Shiomi, Nagai,

2. 2021年度概要

(1) Advanced Robotics Best Survey Paper Award の創設

これまで、Advanced Robotics の Best Paper Awards 表彰では、Best Paper Award を1件、Excellent Paper を3件程度表彰することとしてきた。その過程において、Technical paper と Survey paper は同列に扱われてきたが、Best Paper Award の Reviewer から同列の審査はおかしいとの指摘が再三なされてきた。そこで本年度より Best Survey Paper Award を創設し、Survey Paper は Technical Paper と分けて

独自性：これまでとは違う独自の視点からの、対象分野のとらえ方・まとめ方が行われている。

完成度：対象分野の論文を網羅しており、かつ正しくまとめられている。

有用性：この論文を読むことで、対象分野の面白さや残された問題を正しく理解することができ、今後の研究への波及効果を生むことができる。

の点を考慮の上審査を行い、Best Survey Paper を選出した。

(2) 企画・編集・発行作業

2021年度前半の欧文誌企画/編集/発行状況は、論文投稿数は6月末現在282件（うち新規投稿論文201件（一般論文127件、特集号論文74件））、であった。（2020年度前半は289件（うち新規投稿論文215件（一般論文145件、特集号論文70件））。論文投稿数が微増している。

2020年における年間論文投稿総数は542件（新規投稿論文・376件、再投稿論文・166件）であった（下表参照）。数年にわたって、論文投稿総数は500件程度で安定している状況である。近年、Editor リジェクトを積極的に実施することで、質の高い論文のみを査読者に回すような取り組みを行っており、また全投稿論文に対して CrossCheck™ software が活用され、剽窃の事前チェックを行っている。

なお、2020年度の投稿から第一回目のディシジョンまでの期間は平均で53.27日であった（2019年度は62.18

日、2018年度は76.03日、2017年度は68.56日、2016年度は61.57日、2015年度は66.7日)。これまで90日
を目標にしてきているが、SchlorOneの導入の効果もあ

り目標を5年以上連続で達成している。多くの投稿論文は2回目の査読で採録の可否が決まるため、投稿か
ら最終ディシジョンまでの平均日数は91.68日となっている。2020年度の投稿論文の採択率は、28.83%であ
った。今後も査読期間の短縮に努めていく。

(3) シニアエディタおよびアソシエイトエディタ

近年の500件程度の年間投稿論文数に対応するため、現在シニアエディタ7名、アソシエイトエディタ??
名で編集作業をおこなっている。これらには、海外の研究機関に在籍するエディタ?名、ならびに国内の研究
機関に所属する外国籍のエディタが含まれており、編集活動の国際化を推進している。

(4) 国際化に関して

地域別投稿件数の推移を下表に示す。日本および東アジアを中心とするアジアからの投稿が多く、全体の傾
向に大きな変化はない。欧州、アフリカ、北・南米からの投稿率は低い。質の高い論文を掲載するために、特
集号を企画するなどにより、特に欧州や北米からの投稿を呼びかける必要がある。

表 2020年および2021年(6月まで)の地域別投稿数(新規投稿論文)

国・地域	2020年		2021年6月末まで	
	投稿数	%	投稿数	%
日本	122	32.45	98	48.76
東アジア*	80	21.28	30	14.93
その他のアジア	110	29.26	46	22.89
欧州	29	7.71	9	4.49
アフリカ	7	1.86	7	3.48
北・南米	26	6.91	10	4.97
オセアニア	2	0.53	1	0.48
合計	376		201	

* 中国、韓国、台湾、香港、マカオ

3. 2022年度計画

(1) 欧文誌の内容向上に向けた活動

引き続き、インパクトファクタ向上を目標とする。2020年のインパクトファクタは1.699である。(ご参
考:2019年・1.247, 2018年・1.104, 2017年・0.961, 2016年・0.920)であり、昨年度より大幅に向上し
ている。今後も戦略的にこれを上昇させることを検討する。以前より検討を行っている Review paper の増加
や、また引用の多い論文数件の Open Access 化、魅力ある特集号の企画等を実施する。

(2) 国際化に向けた活動

IROSにおける国際委員会との協力の下、外国人会員の獲得、周辺アジア諸国の関係各学会との連携など、
Advanced Robotics を活用した日本ロボット学会の国際化に貢献していく。

IV. 調査・研究(継続事業4)[担当:企画・広報理事]

1. 2021年度概要

(1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発足	種別
若手・学生のためのキャリアパス開拓研究専門委員会	槇田諭	2021年4月	I種
ロボットの法及び倫理に関する研究専門委員会	稲谷龍彦	2020年4月	I種
複雑高精度機械の組立技術研究専門委員会	大隅久	2020年4月	I種
遊びとロボット研究専門委員会	望山洋	2017年5月	I種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017年4月	I種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017年4月	I種
ソフトロボティクス研究専門委員会	新山龍馬	2017年4月	II種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014年9月	I種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014年8月	II種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	I種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	荒田純平	2008年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野敦	2008年4月	I種
空間知能化研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	II種

※ ヒューロビント研究専門委員会（委員長：槇田諭）は2021年3月末にて活動を終了した。

(2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発足
新型コロナウイルス感染症に対する医療現場・生活環境の保全を支援するロボット技術の社会実装調査研究委員会	本田幸夫	2020年9月
アカデミックロボットベンチャー調査研究委員会	岩田君彦	2020年1月
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見卓	2015年1月
産学連携調査研究委員会	村上弘記	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間一	2013年1月

(3) 技術別・カテゴリー別研究委員会

委員会名	委員長	発足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

2. 2022年度計画

研究専門委員会による研究調査活動を行う。公募による新規研究専門委員会の立ち上げを促進するとともに、HP、学会誌、イベントなどを通して各研究専門委員会の活動内容の積極的な公開を進める。研究協議会により、研究専門委員会間の情報交換を行い、活性化を促すとともに、連携や活動見直しを進める。

V. 表彰（継続事業5）[担当：企画・広報理事]

1. 2021年度概要

- (1) 2021年9月第39回学術講演会において、学会誌論文賞 4件、Advanced Robotics Paper Awards 3件、優秀研究・技術賞 6件、優秀講演賞 5件、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞 2件、ロボティクスシンポジウム優秀研究・技術賞 1件、ロボット活用社会貢献賞 1件、功労賞 1件、研究奨励賞 5件の表彰を行う。なお、実用化技術賞は本年度該当無しとなった。
- (2) ロボット学の研究を行い、学業成績が優秀な大学学部生、高等専門学校生に対して授与する「優秀学生賞」を新設し、2021年3月末に34人に授与した。
- (3) F A 財団論文賞への候補として3件を推薦した。

2. 2022年度計画

第40回学術講演会において、学会誌論文賞、Advanced Robotics Paper Award、実用化技術賞、優秀研究・技術賞、優秀講演賞、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞、ロボティクスシンポジウム優秀研究・技術賞、ロボット活用社会貢献賞、功労賞、研究奨励賞の表彰を行う。さらに、ロボット学の研究を行い、学業成績が優秀な大学学部生、高等専門学校生に対して優秀学生賞の授与を行う。また、F A 財団論文賞への候補論文の推薦など、学会員やロボット分野の発展にとって有益と思われる、外部団体からの推薦依頼についても積極的に対応していく。

VI. 国際（継続事業6）[担当：国際理事]

1. 2021年度概要

(1) 国際委員会活動

国際委員会は、日本のロボット研究の国際的優位性を基盤にして日本ロボット学会の国際的な存在感と地位を確立することを目的とし、このための戦略を策定し実施するための委員会として、

- ・ 国内の外国人研究者向けの発表機会提供のサービス
- ・ 国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み
- ・ Pacific-Asian Robotics Society Union (PARSU)をベースとしたアジアパシフィック圏でのロボット系学会間の協調体制の活性化

の3つを柱に活動を行っている。

(2) 学術講演会における国際セッションの継続実施

これまでと同様に、日本ロボット学会学術講演会において、国際セッションを実施する。国際セッションでは、セッションの司会、発表、質疑応答の全てが英語で行われる。発表者には、日本に滞在する留学生、研究者が多く含まれ、日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは、外国人会員に対する有益なサービスであるとともに、日本ロボット学会を海外の研究者、技術者に知ってもらうための貴重な機会である。また日本の若手研究者にとって、国際学会で発表する前の練習としても利用されており、このような場を提供する意義は大きい。今年度の第39回日本ロボット学会学術講演会においては、

- ・ IS1: Human and Robot 11 件
- ・ IS2: AI, Learning and Control 6 件
- ・ IS3: Robotics and Manipulation 8 件 (合計 25 件)

の3つのトピックでの論文が5つの時間帯（スロット）で発表の予定である。2012年～2020年の論文発表件数はそれぞれ、41件、26件、27件、16件、23件、14件、19件、31件、14件となっている。COVID-19の影響によるオンライン開催が継続されているが、昨年より10件ほど多くの投稿があった。例年と比較した場合には

平均的な投稿数であった。国際セッションを盛り上げていくためには、国際担当理事だけでなく、国際委員にセッションを企画していただくなど一層の改善が必要と考える。また、2019年から引き続き、優秀国際セッション賞を選出し授与する予定である。

また本年度はこれに加え、学会誌理事、欧文誌理事と共同でOpen Forumを企画し、研究を論文にまとめる意義をその技術、国際会議出席の価値について議論する場を設ける。

(3) 国際交流活動

(3-1) 第15回パシフィックアジアロボット学会サミット会議 (PARSU サミット会議)参加

- ・ IROS の会期中に韓国ロボット学会(KROS)主催で開催予定 (オンライン化の影響により延期の可能性はある)。
- ・ 今後のPARSUの活動方針、PARSUメンバーに向けたRSJの貢献の仕方を引き続き議論する。

(3-2) これまでのサミット会議での合意事項の推進

- ・ PARSU ホームページ (<http://www.asian-robotics.org/>) の更新と研究成果情報の共有
 - HP更新
 - 名称をARSU(パシフィックが無い状態)からPARSUに変更
 - 第14回ARSUサミット会議の開催報告
 - コンテンツの充実化、タイムリーな情報更新をはかる (議事録、各学会の主催する国際学会へのリンクなど)

(3-3) インド TRS との活動

- ・ AIR2021 国際会議 (インド TRS 主催) の一環として RSJ-TRS 共同ワークショップを開催した。

(4) 国際会議関連

(4-1) 国際会議の共催、協賛、後援

本会に関連する国際行事(講演会、シンポジウム、講習会、展示会、コンテスト等)の共催・協賛・後援については、国際担当理事が検討・承認をしている。

日本ロボット学会が共催している主な国際会議は以下の2件である。

- ・ The 30th IEEE International Conference on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2021)
日程：2021年8月8日～12日 オンライン開催
- ・ 2021 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2021)
日程：2021年9月27日～10月1日 オンライン開催

(4-2) 共催国際会議の運営への貢献

上記の2つの共催国際会議を毎年開催する際に、それぞれ実行委員会と連絡を取り、RSJが積極的に協力している。2つの国際会議ともIEEEとRSJとの共催であり、MOU (Memorandum of Understanding) を締結している。両国際会議のSteering Committeeとの円滑な情報交換とMOUの順守にあたり、以下によって、RSJの姿勢を意思表示しつつ、国際会議運営への貢献をしている。

- ・ RO-MAN 2021 (スタンディングステアリングコミッティ、Awards Committee meeting, Awards Ceremony)への出席 (副会長、国際担当理事、事務局)
- ・ IROS2021 の Steering Committee への出席 (会長、副会長、国際担当理事、事務局)
IROS 2021 においてRSJ主催による下記のイベントを計画している。ただし、今年はCOVID-19の影響から、本会議の開催形態がオンラインとなり、下記のRSJ主催イベントも変更・中止の可能性はある。
- ・ RSJ Collaboration Lunch for Industry and Academia

2. 2022年度計画

(1) 学術講演会における国際セッション

第40回日本ロボット学会学術講演会において、OS国際セッションを組織する。発表者には、参加登録費を課すが、登壇資格は問わない。

(2) 国際交流活動

(2-1) 国際会議関連

本会に係る下記国際会議の共催、運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う。

- ・RO-MAN 2022 日程：2022年8月29日～9月2日，会場：ナポリ，イタリア（ハイブリッド）
- ・IROS 2022 日程：2022年10月23日～27日，会場：京都，日本

RO-MAN 2022では、理事会メンバーが Standing Steering Committee に参加する。また、現在韓国ロボット学会(KROS)と共同で学際的研究を対象とした RSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Award のスポンサーとなっているが、賞の名称およびスポンサーの形態の変更について検討する。

IROS 2022では、理事会メンバー（会長，国際担当理事，事務局長ら）が、IROS Steering Committee に参加する。また、Best Conference Paper Award のスポンサーとなる。さらに、若手研究者向けの RSJ Tutorial を企画・実施する。企業(主に機器展示企業)と参加者のコラボレーションを提供する機会として RSJ Lunch for Industry and Academia Collaboration (RSJ-IAC Lunch)を企画・実施する。

(2-2) その他

日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施

- ・対アジア外交における戦略の立案（協調と競争のバランス付け）
- ・IROS, RO-MAN 等の国際会議での日本ロボット学会の広報
- ・英語による広報活動の展開（Web およびパンフレット）
- ・インド TRS との積極的な連携

VII. 学術講演会（その他事業1）[担当：学術講演会理事]

1. 2021年度概要

(1) 第39回学術講演会

期日：2021年9月8日（水）～11日（土）

会場：オンライン開催

実行委員長：山崎 公俊（信州大学）

実行副委員長：河村 隆（信州大学）

プログラム委員長：市川 純章（諏訪東京理科大学）

2. 2022年度計画

(1) 第40回学術講演会

期日：2022年9月5日(月)～9日(金)

会場：東京大学 本郷キャンパス

実行委員長：太田 順（東京大学）

プログラム委員長：岡田 慧（東京大学）

VIII. 講習会（その他事業2）[担当：事業理事]

1. 2021年度概要

(1) ロボット工学セミナー

下記のセミナーを企画し、第135回まで開催済、第136、137、138、139回は今後開催予定である。

1) 第131回セミナー「ロボットの作り方～移動ロボットの基本とROSによるナビゲーション実習～」

期日：2021年1月23（土）24日（日） オンライン開催

講師：原祥堯（千葉工業大）、上田隆一（千葉工業大）

オーガナイザー：ラミレス イクシエル（産総研）、池 勇勳（北陸先端科学技術大学院大学）

参加者：44人（会員・協賛：12名、会員・協賛学生：6名、会員外個人8名、会員外学生14名、
賛助優待：4名）

2) 第132回セミナー「視覚と言葉を通じたロボットとの共同作業を目指して」

期日：2021年2月17日（水） オンライン開催

講師：山下隆義（中部大）、高道慎之介（東京大）、西田京介（NTT）、吉野幸一郎（理研）

オーガナイザー：牛久祥孝（OSX / Ridge-i）

参加者：99人（会員・協賛：54名、会員・協賛学生：5名、会員外個人：22名、会員外学生：8名、
賛助優待：2名、賛助招待：2名）

3) 第133回セミナー「こんなときこそ、ロボット」-ポスト・コロナ社会で活躍するロボットと人との リレーションシップ

期日：2021年4月27日（火） オンライン開催

講師：堂前幸康（産総研）、笠置泰孝（株式会社ZMP）、福田和人（JR東日本）、
松田次博（情報化研究会）

オーガナイザー：廣川潤子（東芝）

参加者：48人（会員・協賛：23名、会員・協賛学生：3名、会員外個人：12名、会員外学生：1名、
賛助優待：2名、賛助招待：7名）

4) 第134回セミナー「ロボットのための画像処理技術」

期日：2021年4月27日（火） オンライン開催

講師：奥寛雅（群馬大）、紋野雄介（東京工業大）、宮崎大輔（広島市立大）、
向川康博（奈良先端科学技術大学院大）

オーガナイザー：竹村憲太郎（東海大）

参加者：88人（会員・協賛：42名、会員・協賛学生：8名、会員外個人：22名、会員外学生：3名、
賛助優待：4名、賛助招待：9名）

5) 第135回セミナー「スポーツとロボット技術」

期日：2021年7月2日（金） オンライン開催

講師：浅田稔（大阪大）、妹尾 拓（広島大学）、浅井 恭平（オムロン）、中島 求（東京工業大）、
稲見 昌彦（東京大）、佐藤卓也（富士通）

オーガナイザー：西川鋭（九州大学）

参加者：49人（会員・協賛：25名、会員・協賛学生：5名、会員外個人：9名、会員外学生：3名、
賛助優待：3名、賛助招待：1名、講師招待：3名）

6) 第136回セミナー「組立動作の自動制御技術」

期日：2021年9月1日（水） オンライン開催

講師：原田 研介（大阪大学）、小山 佳祐（大阪大学）、境野 翔（筑波大学）、

高橋 城志（Preferred Networks）、濱屋 政志（オムロンサイニックエックス）

オーガナイザー：沖賢太郎（オムロン）

- 7) 第 137 回セミナー「サービスロボットと安全 (仮)」
期日：2021 年 10 月中旬予定 オンライン開催
オーガナイザー：打田正樹 (鈴鹿工業高等専門学校)
- 8) 第 138 回セミナー「インフラ維持管理とロボット技術 (仮)」
期日：2021 年 11 月予定 オンライン開催
オーガナイザー：工藤拓 (富士通)
- 9) 第 139 回セミナー「ロボットの作り方 ～移動ロボットの制御と ROS による動作計画実習～ (仮)」
期日：2022 年 1 月下旬 2 日間 開催予定 オンライン開催
オーガナイザー：野口宏明 (パナソニック) ガルシア グスタボ (奈良先端科学技術大)

(2) 共催・協賛等

本会に関連する国内行事(講演会, シンポジウム, 講習会, 展示会, コンテスト等)の共催・協賛・後援について審査を行った。

共催 1 件, 協賛 25 件, 後援・その他 8 件 (2021 年 3 月～7 月)

○ 主な国内共催事業：

- 1) 第 26 回ロボティクスシンポジウム
期日：2021 年 3 月 16 日 (火) ～17 日 (水)
- 2) ロボカップジャパンオープン 2021
期日：開催中止
- 3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル 2021
期日：開催中止
- 4) レスキューロボットコンテスト 20×21
期日：2021 年 8 月 7 日 (土) ～8 日 (日)

2. 2022 年度計画

(1) ロボット工学セミナー

2022 年度は, 事業計画委員会において下記のセミナーの検討を進めている。

・「ロボットビジョン」2022 年 5 月, 「ロボットの作り方」2021 年後半 など

(2) ロボット工学セミナーのアーカイブ化および有料配信

ロボット工学セミナーでは参加者の利便性に鑑みて, 録画した講演動画を見逃し配信として期間限定で参加者へ公開している。さらに今後, アーカイブ化された講演動画を有料配信することを計画している。

(3) 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。

○ 主な国内共催事業 (予定)：

- 1) 第 27 回ロボティクスシンポジウム
期日：2022 年 3 月 16 日 (水) ～17 日 (木)
- 2) ロボカップジャパンオープン 2022
期日：未定
- 3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル 2022
期日：未定

4) レスキューロボットコンテスト 2022

期日：未定

IX. 法人処理 [担当：庶務理事]

1. 2021「年度概要

(1) 会員数の動向

	2019年 12月31日	2020年 12月31日現在	2020年 7月15日現在	増減 2021/1/1～7/8
名誉会員	12	10	10	増減なし
正会員	2,969	2,890	2,861	29名減
学生会員 A (旧学生会員)	354	245	205	40名減
学生会員 B	469	512	541	29名増
終身会員	140	151	153	2名増
賛助会員 (団体数 (口数))	96 (118)	101 (123)	101 (123)	増減なし

2021年1月～7月の間の移動

		人数/ 口数	正会 員	学生 A	学生 B	終身	名誉	賛助 会員	(口数)
入会/ 復会	正会員	59	59						
	学生 A	21		21					
	学生 B	107			107				
	賛助(社数)	4						4	
	賛助(口数)	4							4
退会/ 喪失	正会員	101	-101						
	学生 A	53		-53					
	学生 B	71			-71				
	名誉								
	賛助(社数)								
	賛助(口数)	4						-4	
変更	学 A→正	4							-4
	学 B→正	8	8	-8					
	正→学 B	7	7		-7				
	学 A→学 B								
	学 B→学 A								
	正→終身								
合計			-29	-40	29	2	0	0	0

- (2) 第 11 回定時総会を，令和 3 年 3 月 23 日(火) 日本ロボット学会会議室およびオンラインにて開催。
出席代議員：58 名（内委任状提出：12 名）（代議員総数：59 名，総会成立の定数(過半数)30 名以上）
- ・令和 2 年度の事業・決算報告，および令和 3 年度の事業・予算の提案がなされ，承認された。
 - ・令和 3，4 年度を任期とする新役員 14 名の選任の提案がなされ，承認された。

(3) 各種委員会活動による学会運営活性化の状況：

- ・学会価値委員会：理事が中心メンバーとなり、収益拡大のための新規事業検討と財務体質改善、日本ロボット学会の知名度向上、会員数拡大、学会員や賛助会員に対するサービス向上、ジェンダー対策、広報活動の企画等の具体的アクションを引き続き推進中。
- ・今年度は特に収益拡大を目指し、オンラインロボット工学セミナーなどのアーカイブ化と有料配信を新規事業とすべく、著作権や報酬等の課題解決に向けて具体的検討を進めている。知名度向上としては、学会 HP 編集委員会を中心に活動し、研究室見学や元会長のエッセイなどロボ學 HP のコンテンツを充実。また、会員増員施策として、ロボット工学専門家以外の方を対象とする会員枠やサービスの検討を開始した。さらに、ジェンダー対策 WG を立ち上げ、女性会員の支援や増員のための検討を開始した。

2. 2022年度計画

- (1) 年度中に 10 回(予定含む)の理事会を開催し、会務の審議と処理を行う。
- (2) 会員数の増強を図るため、知名度向上と入会勧誘を引き続き推進する。
- (3) 理事会、各専門委員会での学会価値・サービスの質向上に向けた活動を継続する。

X. 財務報告 [担当：財務理事]

1. 2021年度概要

(1) 今年度の予算概略は、次のとおりである。

当期収入：	95,936 千円
当期支出：	95,277 千円
当期収支：	659 千円

- (2) 2021 年度は、予算における収入・支出の規模はコロナ禍の影響で微減となっている。個人会員数もここ数年微減の状態であり、学会誌論文掲載数の減少など学会を取り巻く環境を考えると、今後財務状況は厳しいことが予想される。そのため、学会価値委員会内で新事業・財務改革検討 WG を立ち上げ、会員の利便性向上や新事業の創出による収入の増加及び支出の削減について議論しており、これにより財務体質の強化を計る。
- (3) 予算執行は、現在までのところ順調である。しかし、コロナ禍の影響で講習会事業、学術講演会事業、国際学会分配金の収入等不透明な部分も存在する。そこで、収入を安定化させるために新事業・財務改革検討 WG の検討を継続する。また、ニーズをとらえたセミナーの実施や現在検討を進めている有料配信事業の実施が期待される。

2. 2022年度計画

- (1) 2022 年度は、コロナ禍の影響による生活様式の変化と 2021 年度の収支予想を精査しながら予算編成を進めていく。会員数の増加を目指し、会員それぞれにメリットのある事業運営を推進することで会費収入の増加を図ると共に、学会運営の効率化・合理化を進めることで、支出の削減を図り、財務体質の強化につながる予算編成を立案する。また、ニーズをとらえた講習会・セミナーの企画及び、新事業として議論されている有料配信事業の立ち上げ、一般社団法人への移行完了に伴う収益性を持たせたシンポジウムの開催等により、一層の財務基盤の安定化をすすめていく。
- (2) 本年 12 月開催の理事会で 2022 年度の予算を決定する予定である。

表2 2021年度着地と進捗率(単位: 千円)

収入		2021年度 予算	進捗率 6月末	6月
				累計
事業	継1 公開シンポジウム	0	-	0
	継2 会誌	11,600	37%	4,260
	継3 欧文誌	2,374	106%	2,509
	継4 調査・研究	0	-	0
	継5 表彰	0	-	0
	継6 国際	0	-	0
	学術講演会	22,260	0%	0
	講習会	4,890	50%	2,436
	小計	41,124	22%	9,206
本部	基本財産利息等	14	0%	0
	入会金収入	100	41%	41
	会費収入	41,752	82%	34,282
	事業収入	0	-	0
	雑収入	12,946	15%	1,886
	小計	54,812	66%	36,208
収入合計		95,936	47%	45,414

支出		2021年度 予算	進捗率 6月末	6月
				累計
事業	継1 公開シンポジウム	1,590	0%	0
	継2 会誌	29,178	39%	11,371
	継3 欧文誌	5,679	30%	1,714
	継4 調査・研究	576	36%	206
	継5 表彰	8,146	33%	2,687
	継6 国際	2,186	3%	57
	学術講演会	12,156	4%	475
	講習会	4,417	71%	3,158
	小計	63,928	31%	19,668
本部	事業費	0	-	0
	管理費	31,349	45%	14,135
	小計	31,349	45%	14,135
支出合計		95,277	35%	33,803